

An aerial photograph of a town, likely Yamanashi City, Japan. The image shows a dense residential area with many houses and buildings. A large, prominent building with a cyan-colored roof is highlighted in the lower-left quadrant. The surrounding area is a mix of urban development and greenery.

養父市地域おこし協力隊

活動報告会

2025/02/19 Wed. @養父市民交流広場 YBファブ

延岡 由規



延岡 由規 (のぶおか ゆうき)

- 養父市地域おこし協力隊
関宮「小さな拠点」整備事業
コミュニティデザイナー
- 一般社団法人イヒ 代表理事
- 認定ワークショップデザイナー



#1993年生まれ

#兵庫県出身

#3人兄弟の末っ子

#銭湯／サウナ

#カメラ／写真

#国際協力

#地元で起業

関宮「小さな拠点」整備事業について

「小さな拠点」とは

- 小学校区など、複数の集落が散在する地域（集落生活圏）において、
- 商店、診療所などの日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を集約・確保し、
- 周辺集落とコミュニティバス等の交通ネットワークで結ぶことで、
- 人々が集い、交流する機会が広がっていく、集落地域の再生を目指す取組です。

「小さな拠点」形成後のイメージ

小さな拠点づくりに併せて
コミュニティバスなどにより
交通手段を確保

道の駅に農家レストラン、特産品直売所、
コミュニティスペースなどを併設

廃校舎を保育所、デイサービスセンター、
体験宿泊施設などに活用

旧役場庁舎を公民館、
図書館などに活用

スーパー撤退後の施設を集落コンビニ、
農産物出荷拠点などに活用



なぜ「関宮」で必要か

- 人口減少
 - 高齢化（約40%が65歳以上）
 - 若い世代の「核家族」化
- 地理的環境
 - 地域内の広範囲に住居が点在
 - 緊急時の初期的対応の難しさ

表1 救急等の覚知から現場
到着までの所要時間
(令和3年度実績)

	旧町	平均時間(分)
朝来市	生野	9.2
	朝来	9.0
	山東	12.3
	和田山	13.7
養父市	八鹿	8.7
	養父	13.2
	大屋	12.3
	関宮	19.3

資料：南但消防本部

事業概要

- 地域課題：

高齢化が急速に進行する中山間部では、今後、**医療や高齢者福祉のサービス水準低下**の可能性が大きな不安要素となることが予想される。

また、人口減少が進行するなかで従業者が不足することは医療・福祉分野も例外ではなく、**関宮地域においては数年以内に医師の往診やデイサービス等の送迎はもとより、医療・福祉サービスの維持すら困難になる**と見込まれ、それらのサービスが無くなれば、地域の崩壊を招く。

事業概要

- 事業趣旨：**中山間地域における地域包摂システムの構築**

中山間地域にある養父市関宮地区は、居住者密度が低く、一人住まいの高齢者も多く、若い人たちも核家族化等により家族間・地域間で相互扶助していくシステムが徐々に崩壊しつつある。

本事業は、地域の核となる市有地を整備し、地域の高齢者や家族が安心して生活し、かつ生き生きとした人生を送ることができることを目指すものである。もって、中山間地域における地域包摂システム（Social Inclusion）を構築せんとするものである。

関宮「小さな拠点」の基本方針

地域の核となる拠点の整備



地域の高齢者や家族が安心して生活し、かつ
生き生きとした生活を送ることができるようになる

R8年度＝2026年年度のオープン目標！



地域の担い手が創造的な時間を過ごし、世代間の継承を図る施設を整備する。

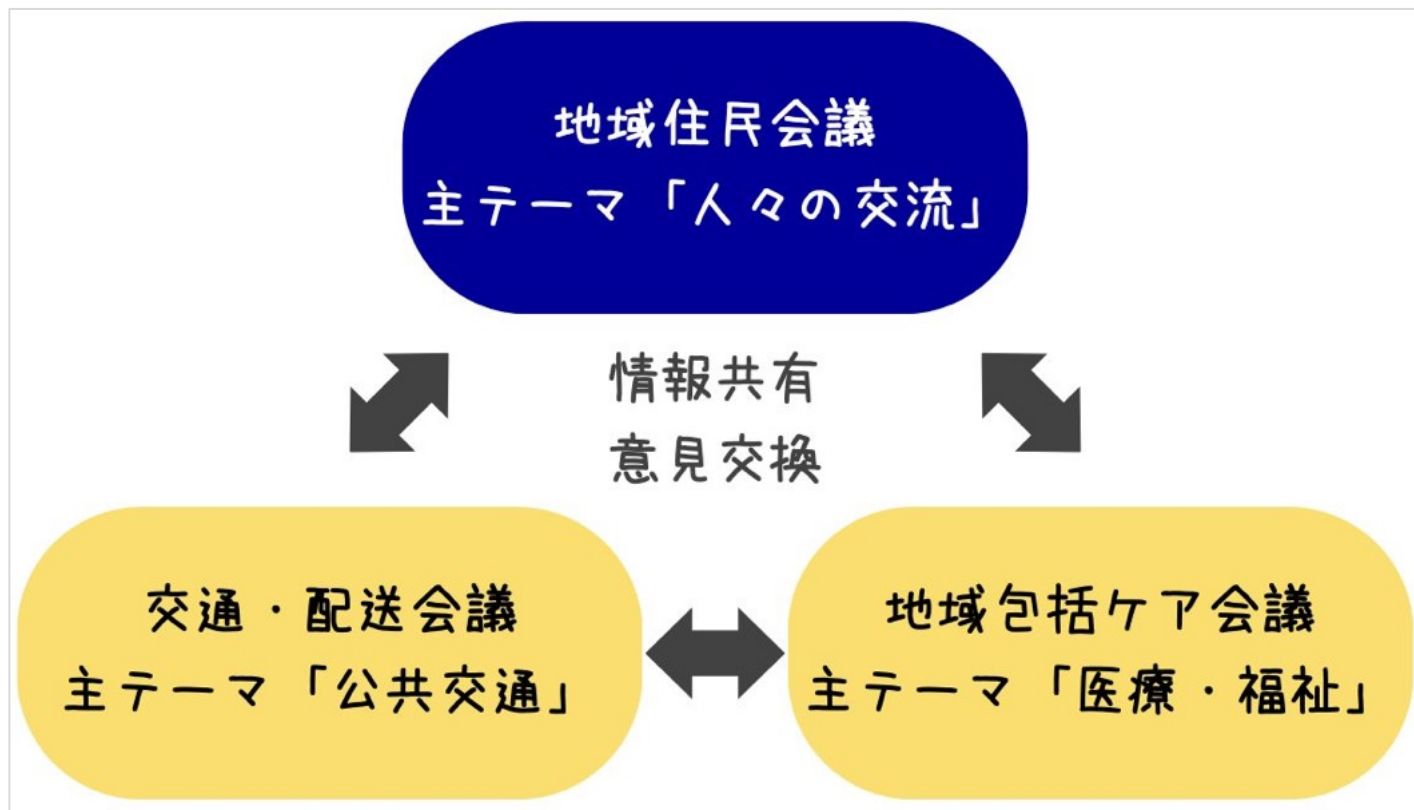
地域の医療や高齢者福祉サービスの維持の観点から早急に整備を要するものを中心に対応する。

子どもたちが自由時間を過ごし、核家族世帯の利便を図る施設を整備する (多世代交流エリア)。

図3 整備エリア

関宮「小さな拠点」整備事業における 地域住民会議について

関宮「小さな拠点」整備事業の会議体



関宮「小さな拠点」整備における地域住民会議

- 2023/3/15-4/14にかけて、一般公募により集まった15名
 - 市内に住民登録を有する18歳以上の方
- 2023/7～2024/1にかけて、合計13回の会議を実施
- 整備エリア1内に新たに整備される「（仮）関宮公民館別館」における、飲食施設を含むコミュニティスペースでの過ごし方を検討

小さな拠点整備事業における情報発信

開宮「小さな拠点」整備事業 住民会議だより

2023年8月31日 発行 第1号
開宮地域集落単位にて、地域自治会づくりの考えのもとで進捗している、開宮小・中拠点整備事業。住民の方々が主体となって対話を行う、住民会議の様子を中心にお届けします。

開宮「小さな拠点」整備事業とは？

中山間地域の集落開宮地域は、お住まいの方々が少なくなっており、1人で暮らすお年寄りの方がたくさんいます。若い世代の転入も減りつつあります。以前に比べると、集落や地域の人たちがお互いに手を貸し合う仕組みが、だんだん弱まってきているところもあります。本事業では、地域の中心部である開宮地域集落単位に「開宮小・中拠点」と位置づけ整備を行うことで、地域の方々が安心して、活き活きとした暮らしを送れるような場所、また地域での人と社会のつながりが生まれるような環境づくりを目指します。

対象区域を3つのエリアに区分して、まずは「整備エリア」から設計や工事を進めています。ここには主に、お年寄りの方が安心して暮らせるためのサービス（仮）開宮公民館別館、交流スペースなどが組み込まれる予定です。続いて、住民の方々がよく話しあえる「住民会議」や各種専門家の方々によって組成される会議などを通じて、ハード面（建物・設備など）、ソフト面（サービス・プログラムなど）の検討が進んでいます。



「住民会議」が開始しました！

2023年3月から4月にかけてお集まりいただいた、開宮小・中拠点住民会議委員は、大田・開宮 出合・黒次郎の4地区、およびその他地域から合計15名が選出されました。そして、第1回 住民会議が、9月1日に開催されました。9月から12月にかけては、合計4回の会議を行います。委員同士での自己紹介、〈仮〉開宮公民館別館の未来像について話し合いました。



当回は、〈仮〉開宮公民館別館を議題の中心に置いた、コンセプトを実現したいことなどを、対話を通じて考えたいと思います。

各種SNSでもお届けします！

お絵コードより、お使いのものもフォローしてお届けくださいませ。主に住民会議の様子をお届けしてまいります。



開宮「小さな拠点」整備事業 住民会議だより

2023年9月30日 発行 第2号
開宮地域集落単位にて、地域自治会づくりの考えのもとで進捗している、開宮小・中拠点整備事業。住民の方々が主体となって対話を行う、住民会議の様子を中心にお届けします。

地域の存続に不可欠なサービス維持の拠点にも！

本事業における「地域包括ケア」は、地域づくりの基本である「居住者（人）」に着目する考え方が置きかえられます。開宮地域に住む人の暮らしは必ずお年寄りの方であり、地域で安心して暮らしていくために、医療や福祉は必須の機能だと捉えられます。しかしながら、開宮地域における医療・福祉サービスは将来的に維持することが困難になる可能性があり、お年寄りからは懸念されています。地域内で安心した生活を送ることができなければ、おにやて行く方を得ません。整備エリアにはさまざまなサービスを提供する「仮」開宮公民館別館が、地域の存続に不可欠なものとなります。開宮地域を未来の世代に傳っていくためには、まずは現在住んでいらっしゃる方々が、この先を安心して暮らしていくための地域環境を整えることが重要であり、最善世代の数字年後の安心にもつながるのではないのでしょうか。



「住民会議」では3つのテーマで検討を進めています！

「小・中拠点」づくりの第1段階の対話となる「整備エリア」では医療・福祉サービス関連の施設だけでなく、〈仮〉開宮公民館別館（以下「別館」）も整備される予定です。住民会議においては、お年寄りの方に限らず、親を介護される方々の交流が生まれるような「別館」の使い方を検討しています。「いっしょ」「誰が」「何を」して過ごすのか、その理想を共有した結果、「人権を尊重する」「生き・健康を共有する」「仮 集落単位になる」という3つのテーマに分かれて、コンセプトを検討することになりました。「小・中拠点」が実際にできたら誰に多くの利用がもたらされるかにも、どのような場所にもなりたいかを、各地の事例も参考にしながら話し合っています。



教育やキャリアアップの課題、調理と食事の時間を仲間と過ごすことでのシェアキッチン、それぞれの関心を持つお年寄りのマッシュルームの開催、などご本人の「理想」が出てきています。また、誰にとっても安心のよい別館となるために、多様な世代の方々の意見を聞くための調査実施も検討されています。

各種SNSでもお届けします！

お絵コードより、お使いのものもフォローしてお届けくださいませ。主に住民会議の様子をお届けしてまいります。



開宮「小さな拠点」整備事業 住民会議だより

2023年10月31日 発行 第3号
開宮地域集落単位にて、地域自治会づくりの考えのもとで進捗している、開宮小・中拠点整備事業。住民の方々が主体となって対話を行う、住民会議の様子を中心にお届けします。

拠点整備は各専門家が強みを活かしながら進捗しています！

開宮「小・中拠点」整備事業においては、現在進捗している「整備エリア」では、地域で安心した生活を送るうえで不可欠な「医療・福祉」、住民の方々の生活品質向上に向けた継続的な「仮 公民館」、多世代・地域内外の方々の「交流」の3つを大きなテーマに選んで、進捗しています。各テーマごとに専門家と交差点会議を組成し、お互いに情報や意見を交換しながら、地域の長と各拠点のあり方を検討しています。



住民会議のゴールと進捗

2023年5月より、地域住民会議は隔週、月に2回の頻度で委員の方々が集まり、〈仮〉開宮公民館別館（以下「別館」）の使い方の検討を進めています。9月から12月にかけては「地域住民主体の会議体」として、住民会議の立ち位置や存在意義を改めて確認することができ、今後の進め方をゴールを委員同士で確認し合う時間となりました。



現在の進め方で進捗する住民会議としては、「別館」における敷居調整や交流スペースを検討対象として、2023年内にコンセプトを取りまとめ、それに基づく具体的な「造りかた」と「施設・設備の基本要件」の整理をゴールとする形に定めました。合わせて、2024年3月までに記述ベースにおける「運営の基本要件」の整理も目標として検討を進めていきます。

3つの分科会に分かれて、話し合いを進めつつ、分科会の輪を超えて意見を出し合いながら、コンセプトの土台となる考えの整理を、以下のように進めています。「あくまでも現時点での進捗となります」。

- ・「仮 集落単位」多くの世代が、様々な時間で、様々な目的を持って集まる場所の実現を、時間軸に応じてお集まりや食事、お集まりをしながら、いつでも、誰でも、気軽に利用できる場所を検討。
- ・「仮 健康・健康を共有する」やりたいこと・お集まりたいことを通じて、人の輪を広げられる場所の実現を、設備面でも、人の数でも「何かがやりたい人」がそれぞれ実現できるような場所を検討。
- ・「仮 集落単位になる」集い、憩い、つながり、安心できる場所の実現を、地域住民の方々の、地域づくりに地域交流、市民活動、積極交流に取り組みながら、つながりを深められる場所を検討。

各種SNSでもお届けします！

お絵コードより、お使いのものもフォローしてお届けくださいませ。主に住民会議の様子をお届けしてまいります。



小さな拠点整備事業における情報発信

開宮「小さな拠点」整備事業 住民会議だより

2023年11月30日 発行 第4号

開宮地域再編地区にて、地域分断社会づくりの考えのもとで進んでいる、開宮小・中拠点整備事業。住民の方々が主体となって対話を行う、住民会議の様子を中心にお届けします。

3つの分科会ごとで、これまでの対話内容を整理

地域住民会議では（仮）開宮市民懇話会（以下「別館」）における、教育施設を含む交流スペースの過ごし方を中心に、検討を進めています。11名の委員が「人・命をまもる」「好き・得意を共有する」「住環境になる」をテーマとした3つの分科会に分かれて、これまでの対話を通じて検討してきた内容をまとめる取組を行っています。中でも、いつでも立ち寄ることのできる場所としての開放感を求める「案件」スペースの設置や、目的に応じて柔軟に空間を仕切ることのできる可変的なパーティションの設置、実際に運営を見届けたときの管理責任者に必要な資格等々、これまでの対話をもとに、より具体的な検討事項の整理を行っています。



八歳高校生と一緒に「まちの未来」を考える！

住民会議内での対話が進んでいくにつれて、まちの未来を考えると、「子ども・若者」の視点を取り入れることの必要性が事業側でも話題に上がるようになってきました。そこで、再編単立小・中学校の生徒の方のご協力のもと、11月19日に「まちの未来と『別館』の暮らし」開宮地域「小さな拠点」と一緒につくるまち」と題したワークショップを開催しました。当日は、有志の生徒11名に参加いただき、進行サポート役の住民会議委員3名と、活発な意見交換を行いました。

市長に中間報告を行いました！

地域住民会議では、これまで4回の対話を行いました。1つの分科会ごとの検討内容をまとめた上で、11月21日に、広瀬市長へ中間報告を行いました。市長からは「できるだけ自由な空間をつくり、今の空間の暮らし方は住民の方々に任せ、考えたいだけがいい。」「人としての価値・意欲の高さといったものはあるが、みんなで作るを実現しようと考えるところが大事。本当の意味での『受託』が感じられる場所をつくらなければならない。』といったコメントをいただきました。



小さな拠点整備が完了してから想定される、主要利用者の層の一部を占める子どもや若者の動きも、開宮市内で高校生活を過ごす14代が、何を感じながら何を過ごして、どんな暮らしの課題・理想を抱いているのか、本書で対話をするこができました。今回に際して、これからも継続的に多様な世代の方々と意見交換する場をつくらなければならないと考えています。



発行所：開宮地域まちづくり協賛 開宮「小さな拠点」整備事業担当 坂田 由穂
お問い合わせ先：email: y.nakuka.yaku@gmail.com / tel: 078-4133-8841

開宮「小さな拠点」整備事業 住民会議だより

2023年12月31日 発行 第5号

開宮地域再編地区にて、地域分断社会づくりの考えのもとで進んでいる、開宮小・中拠点整備事業。住民の方々が主体となって対話を行う、住民会議の様子を中心にお届けします。

テーマごとの会議体でも拠点整備の検討を進行中！

住民会議だより第4号でも紹介した通り、開宮「小さな拠点」整備事業は、利用者の過ごし方・交流をテーマに各内にお住まいの方々の意見を集めた「地域住民会議」の他にも専門家と交流した会議体によって検討が進んでいます。地域内での安心した生活を実現するため、「医療・福祉」をテーマとした地域包括ケア会議では、整備エリアの全体配置に関して意見交換を行いました。特に、産科や薬局、診療所の全利用者を想定できるお茶室のあり方の提案も、立ち寄りやすい・利用しやすい環境のあり方を検討しています。また、地域内外での生活品質向上に向けた、持続的な「公共交通」をテーマとした交通・配送会議では、12月1日から11月にかけて開宮地域で実施していた、デマンド運行に関する実証実験の結果を取りまとめました。期間中にご利用いただいた方々のアンケート結果やヒアリング内容をもちに、次の実証実験に向けた検討を進めています。

各分科会での意見を「住民会議」としての意見に！

住民会議では（仮）開宮市民懇話会（以下「別館」）における交流スペースの過ごし方、「命をまもる」「好き・得意を共有する」「住環境になる」の3つの分科会別で話し合いを進めました。12月は、これまで各分科会で整理してきた内容を、「別館」での過ごし方、理想的な過ごし方を実現する整備エリアの全体配置、お茶室から「住民会議」としての意見として統合し、取りまとめを試みる対話を実施しました。



今後は、1月中に住民会議としての意見の取りまとめを終えて、他の会議体や運営関係者と意見交換しながら、理想的な拠点とするよう対話を進めていく予定です。



発行所：開宮地域まちづくり協賛 開宮「小さな拠点」整備事業担当 坂田 由穂
お問い合わせ先：email: y.nakuka.yaku@gmail.com / tel: 078-4133-8841

開宮「小さな拠点」整備事業 住民会議だより

2024年1月31日 発行 第6号

開宮地域再編地区にて、地域分断社会づくりの考えのもとで進んでいる、開宮小・中拠点整備事業。住民の方々が主体となって対話を行う、住民会議の様子を中心にお届けします。

7月からの集大成！ 「住民会議としての意見」を取りまとめました！

現在おこなわれている住民会議は11月19日から始動し、1月31日に1回目となる会議を開催しました。開宮「小さな拠点」整備事業の中でも、最も早く設計・工事開始される整備エリア7（旧開宮地域再編地区およびその周辺）に配置予定の（仮）開宮公民館別館（以下「別館」）における交流スペースの過ごし方を検討してきました。



今回のテーマで、今回の事業で実施する住民会議としては初めて、最終採択を超えることとなり、これまでの検討内容を「住民会議としての意見」に統合しました。「別館」での過ごし方ごとに「ケイビッド」「モービッド」「機を養育マッソー」に「具体的な過ごし方」「魅力」「満足度」「写真・イラスト」を整理し、コンセプトシートとして作成しています。



▲（仮）コンセプトシート表紙。今回の「過ごし方」を取りまとめました。
（仮）各過ごし方に対する詳細説明の一部。同様の項目に他の「過ごし方」もまとめました。

これからの動きについて

現在の形での地域住民会議としては、一応打ち切りとなります。今後については、取りまとめた「コンセプトシート」等の成果物をもとに、他会議体との情報連携を行う予定です。特に、他会議体におけるハード面（建物・設備・全体の配置、など）の検討が進んできたら、住民会議としての意見が可能な限り反映されるよう、意見交換の場を設けながらよりよい拠点づくりを画っていきます。また、今回の住民会議での検討結果は、広く市民の方々へも発信していきたいと考えています。幅が広がるように、イベントを開催できたらと考えておりますので、情報提供も楽しみにお待ちしております。

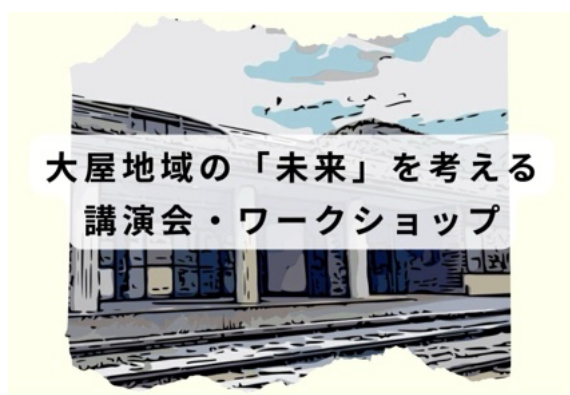


発行所：開宮地域まちづくり協賛 開宮「小さな拠点」整備事業担当 坂田 由穂
お問い合わせ先：email: y.nakuka.yaku@gmail.com / tel: 078-4133-8841

八鹿高校生との意見交換ワークショップ



大屋地域における地域住民会議の発足



開催概要

市の将来をつくる計画である「養父市まちづくり計画」では、誰もが主役になれる、全員参加の養父づくりを推進しています。新しい技術も活用しながら、みなさんと地域の将来を考え、「大屋らしい」まちづくりについて考えるイベントです。

日時・会場

2024.6.30 (日)
13:00-16:00
大屋市民センター 2階 大会議室
養父市大屋町大屋市場20-1

定員・参加方法

事前申込不要。定員30名程度。
※当日、お持ちの方はぜひ、スマートフォンをご持参ください

当日の流れ

- 主旨説明
- 講演会
「養父市まちづくり計画・居空間構想から、大屋の未来を考える」
- 意見交換ワークショップ
「大屋地域の課題を共有し、活性化を考える」

登壇者のご紹介

増正夫 (講演会講師)
神戸国際大学 経済学部 教授
養父市まちづくり計画評価検証委員会 委員長
養父市政策アドバイザー
延岡 由規 (ワークショップファシリテーター)
養父市地域おこし協力隊

主催・問合せ

主催：養父市
お問合せ：大屋地域局
tel 079-669-0120 / fax 079-669-1682

- 2024/07-10月にかけて、実施
 - 10名程度（各回）の委員
- 「大屋らしいまちづくり」に焦点を当てて、地域の方々の目線で理想を検討



**“おかえり”と言えるまち
～住民全員がひとつ大きな屋根の下～**

おせっかい／人の良さ／地域の全員が知り合い
ひと言をかけ合える／まち全体が家だと思える安心感

活動を通じての学び

1. 住民主体の場づくりと合意形成の難しさ

- a. 意見を集めるだけでなく、「対話を通じた合意形成」の場
- b. 「説明型」ではなく「対話型」

2. 情報発信の工夫と伝え方の重要性

- a. わかりやすい言葉づかいや図解の活用
- b. 「事業の目的」と「住民の暮らしへの影響」をセットで伝える

3. 多様な関係者との調整とファシリテーション

- a. 多様な関係者の意向を整理し、バランスを取る役割の必要性
- b. 対話を通じた調整力やファシリテーション能力
- c. 「完璧な場をつくる」のではなく、「対話を重ねながら場を育てる」視点

今後の活動について

- 社名：一般社団法人イヒ
- 設立日：2021年4月6日
- Vision：変化への愛で満ちた社会を
- Mission：明日をたのしむきっかけづくり
- 事業概要：①ふるさと活躍人材の育成
②ふるさとコンテンツの開発・プロデュース
③ふるさとの魅力発信





一般社団法人イヒ
化わる、たのしむ



IHI.LOCAL